

藤島地域の義務教育学校

年度内に校名を選定

藤島地域義務教育学校の第1回開校準備委員会が30日開かれ、新校舎の施設整備は、令和8～9年度に基本計画と基本設計を作成するとし、校名の選定が8年度内に先行して進められます。

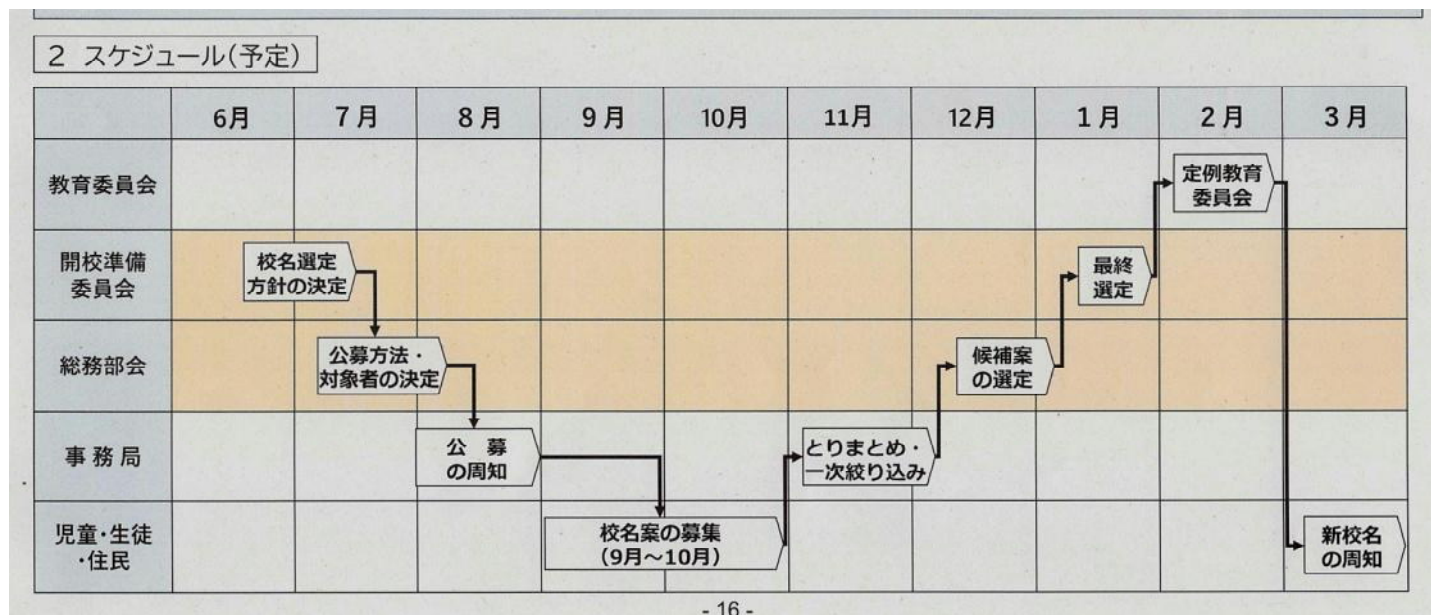
校名選定の方法は、公募によって行い、準備委員会では選考、教育委員会が校名を決定し、市議会で「学校設置条例」の改正により決定されます。

校名案の公募は9月～10月、藤島地域の小学生や保護者、卒業生、住民を対象に、「その由来や想い」を募集するとしています。

校名の名称は「鶴岡市立〇〇学園」とし、「学園」を採用する理由として、「義務教育学校の校名として全国的に定着しており、分かりやすい名称であるため」、「既存の小・中学校とは異なる制度の学校であることが直感的に伝わりやすく、名称として親しみやすさがあるため」としています。

藤島地域義務教育学校の校名募集スケジュール

※第1回開校準備委員会（6/30）資料から



東京都世田谷区立桜丘中学校

学校の校則を廃止 定期テストも宿題も制服も廃止

公立中学校で「校則も制服も定期テストも宿題もなくした」西郷孝彦校長の教育改革。なくしてどうなったか。それまでであったじめも不登校もなくなり、学力が上がっている。

「『公教育をあきらめるな！』（集英社新書）は痛快です。生徒手帳にあった校則のページをなくして、

ふるさと賛歌

鈴木重雄 八色木

前回、八色木の跨線橋から眺める庄内平野は絶景であると書いた。

家のことを書いたので、再録したい。

前田利家公の実兄利久の嫡男、前田慶次（別名：前田慶次郎）は、上杉景勝公に仕えて3万石を録した。

上杉家の米沢転封と同時に、その子孫は旧朝日村の田沢に逃れ、性を前田から田澤に改め、庄内に入り、加賀大乗寺の末寺である八色木の永慶寺の檀越（だんおつ）（檀家）となった。古郡田澤家の祖先である。

下町のはずれから田中さんの所に休み石があつて、一休みすると気持ち直る。少し曲がりくねった水路と道路が併行し、2軒の家があつた。

1軒は踏切屋という料理屋で、隣は油揚げであつた。

田澤家の位併壇は、永慶寺の開山堂正面にある。

昭和54年3月に羽越本線に跨線橋が完成し、曲がりくねった道路は、面影だけが残っている。

田澤稲舟（明治7年（29年）は明治の女流作家で、前田慶次の後裔であり、永慶寺に位併壇がある。

永慶寺と古郡田澤家

先日（6/26）、古郡の田澤繁さんが73歳で急逝された。

『民報』に以前、田澤

鶴岡市内の般若寺にも田澤家の墓所があるが、八色木までは遠いので、市内に墓所を作ったと思う。（2024年8月25日号）

公教育をあきらめるな！

西郷孝彦 宝上真弓
Saigo Takahiko Hojo Mayumi
木村元彦 構成
Kimura Yukihiko

教育で大事なことは何ですか？



集英社新書

『公教育をあきらめるな！』著者：西郷孝彦 宝上真弓 木村元彦（構成）集英社新書

「子どもの権利条約」を載せるのもすばらしい。

1人の困った子がいたら、その1人のために学校全体の環境を変える。それがみんなのために。学校の「ユニバーサルデザイン」（みんなが使いやすい学校）がいい。

競争と管理主義の教育と、「新自由主義」の維新が壊した大阪の教育行政への批判も痛烈です。

渡前小子ども獅子踊り今昔物語

藁(わら)文化の里 ⑨

渡前獅子踊り保存会 太田功

先日、渡前地区森林管理組合所有の羽黒町「大坂山」に分け入った。

図面をもとに各町内所有地を目指し早々に離散する。

我々3人は境どころ

加藤民雄前会長(宝徳)はじめ、役員や地権者10数人が集合した。

か方角さえ見当つかぬ者同士で、別の図面などをつなぎ合わせ聞き取りし、や

つとのこと

で入口は判

明したもの

の、途中、

笹やぶ状態

に阻まれ断

念した。

道の途中

気になるの

は、やはり

「熊」。腰や

リュックに

着けた鈴音

に気づいて、逃げてくれればよいが、足跡がないかと気にかかる。

学生時代、大千軒岳

(北海道松前)に登山

した際、濃緑色のうん

こと、でかい足跡に出

くわしたことがある。

ヒグマのものと分かり、

急いで退散した経験がある。

猫と犬の足跡の見極

めは爪があるかないか。

普段つま先立ちで、獲

物に静かに近づくため

に、猫は腱の力で爪を

引き上げ隠し、いざと

いう時に鋭い爪を使う

のだと。

犬やオオカミは遠く

まで獲物を追いかける

徹底審議で解明を

いつも国会中継のテレビを見ていて思う事

なんだが、ナゼまでも

に答えないんだろうか、

ナゼはぐらかすんだろ

うか、ナゼ同じ言い方

を繰り返すんだろうか

と。そして委員長は、

ナゼそんな答弁を注意

しないんだろうかと。

それが無くなれば、審

議時間が縮まり国会は

安く上がるでしょう。

▲そんな答弁書を読ま

せられているのなら、

書いた事務官を注意し

て書き直しをさせるべ

きでしょう。それをし

ないで前夜に何回も読

み返し、自分の答えと

して答弁に立つのだけ

ら、無責任を徹底して

いる事になりませんか。

▲しかも首相は、秘書

が言ったかどうか・声

がどうだったとか、鎌

倉に連絡するのにクタ

ビレタとか言っている。

これも答弁なんだ。そ

馬は一つの蹄から奇蹄目と分類されている。

人は五本指の哺乳類

だが、靴下を履けば奇

蹄目、足袋にすると偶

蹄目に見かけ上はなる。

いよいよ次号が藁文

化の里シリーズ最終、

白足袋と黒足袋が台湾

南東部を旅(たび)する

話だ。

宮崎清氏はじめ千葉

大工学部研究室グルー

プが久方ぶりに、自然

素材で実用品や民芸品

を作り上げる団体に呼

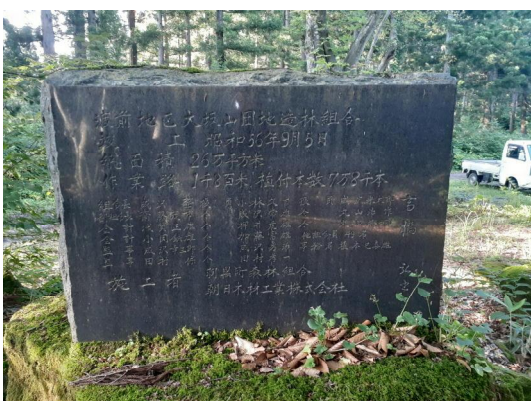
びかけた。2008年

のことだ。

…(つづく)



(大阪山記念碑)



望明月峯

明月峯を望む

城貞(藤の花)

雲隠山頭宿聖霊

雲は山頭を隠して聖霊宿る

登臨概想数峰冥

登臨して概想すれば数峰冥なり

幾回相望転纏絡

幾回か相望んで転た纏絡

何日上巔喫冷釀

何の日か巔に上り冷釀を喫う

山の頂は雲におおわれて、山には聖霊が宿っている。

月山に登って感慨にふけて四方を見下ろしてみると

多くの山々がはるか遠くに見える。月山を見るたびに

やまへの思いは、ますます強くなっていく。いつの日か

山頂に登り疲れをいやす、冷酒を飲むとしよう。

明月峯Ⅱ月山。山頭Ⅱ山の頂。

登臨Ⅱ高い所に登り見おろす。

聖霊Ⅱ神から出て人にやどり精神の働きを

力づけるもの。

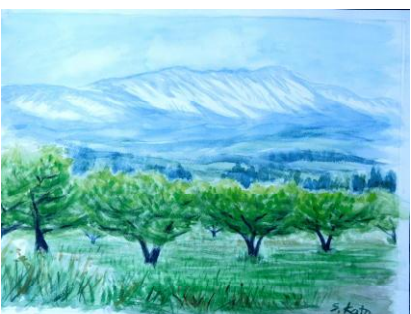
概想Ⅱ感慨深く思う。数峰Ⅱ多くの山山。

冥Ⅱ離れている。望Ⅱ遠く見渡す。

転Ⅱますます。纏絡Ⅱまつわりからみつく。

何Ⅱいつの。上Ⅱ山の上の方に行く。

巔Ⅱ山頂。喫Ⅱ飲む。冷釀Ⅱ冷酒。



(画・加藤貞雄)